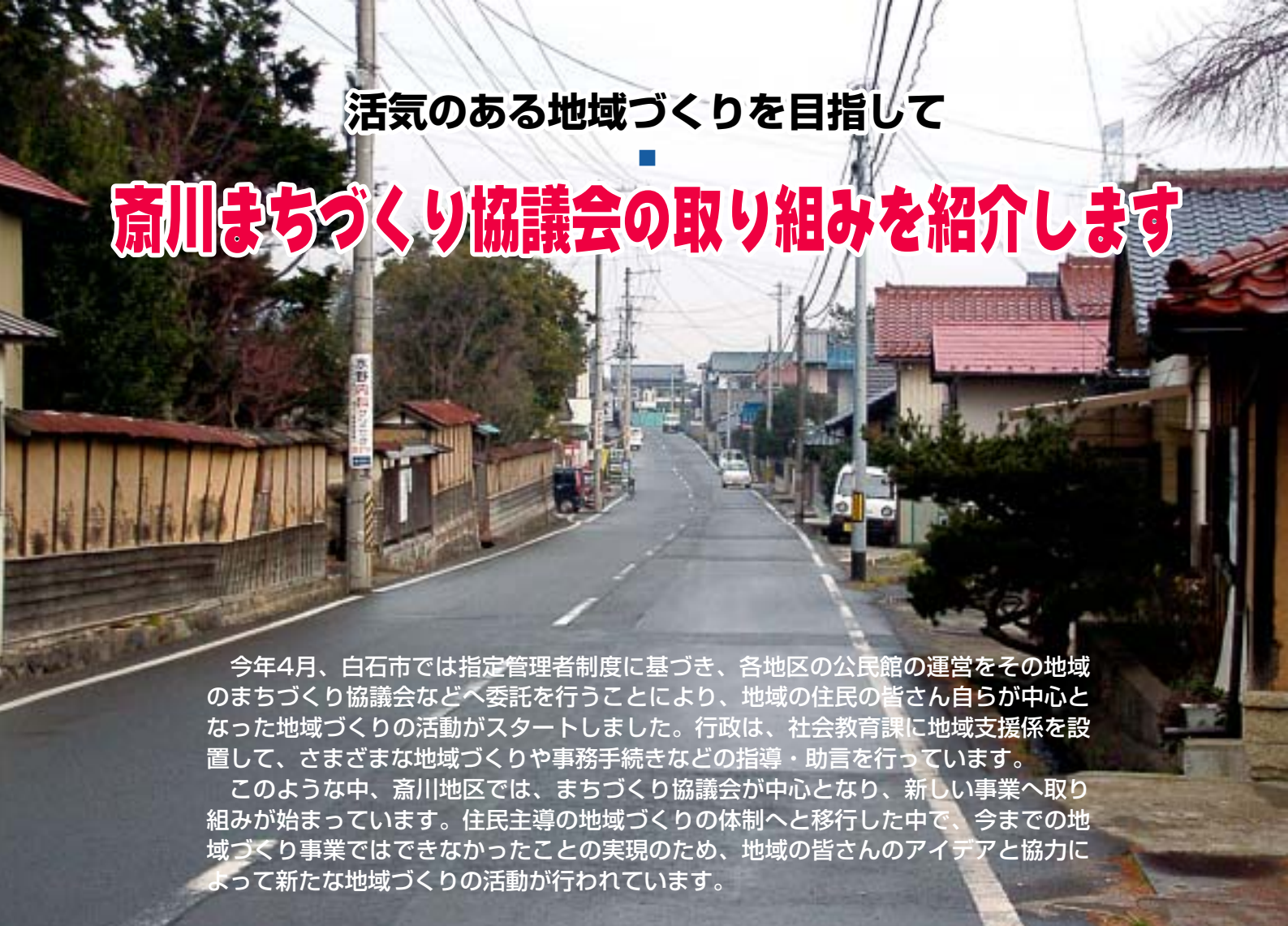


活気のある地域づくりを目指して

齋川まちづくり協議会の取り組みを紹介します



今年4月、白石市では指定管理者制度に基づき、各地区の公民館の運営をその地域のまちづくり協議会などへ委託を行うことにより、地域の住民の皆さん自らが中心となった地域づくりの活動がスタートしました。行政は、社会教育課に地域支援係を設置して、さまざまな地域づくりや事務手続きなどの指導・助言を行っています。このような中、齋川地区では、まちづくり協議会が中心となり、新しい事業へ取り組みが始まっています。住民主導の地域づくりの体制へと移行した中で、今までの地域づくり事業ではできなかったことの実現のため、地域の皆さんのアイデアと協力によって新たな地域づくりの活動が行われています。

子ども居場所づくりへの取り組み

齋川地区では、地域子育て支援センターと地域の住民が協力して、公民館を会場に幼児の遊び場「あいあい広場」を開設してきました。その経験を活かして、今年4月から齋川小学校の児童などを対象に、「さい遊館」として、子どもの居場所づくりを行っています。



▲上手にまわせるかな？

心豊かでたくましい子どもを地域全体で育てるため、学校や公民館などを活用して、安全で安心な子どもたちの活動拠点「さい遊館」を設け、地域のさまざまな能力を持った皆さんが指導員として活動しています。

4月17日から始まったこの事業に

は、齋川小学校の子どもたち44名が参加しています。指導員や協力員には、高齢者や若者、女性など約30名の皆さんが参加し、放課後における遊び場の安全管理や指導を行っています。活動は月6回程度で、放課後の遊びの場のほかに、週末にはソフトボールやサッカーなどのスポーツを地域の皆さんと一緒にを行い、地域住民の皆さんとの交流活動を行っています。



▲地域の皆さんとソフトボールの練習

化などを伝承するための事業も企画して、地域全体で子どもたちを育てていく、そんな地域を目標に頑張っています。

齋川まちづくり協議会の取り組み

齋川まちづくり協議会の取り組みとしては、地区公民館事業としての子育て支援事業と、齋川産の農産物の直売所の開設を後押しする2つの事業を掲げ、その実現に向けた活動が始まりました。

この事業への取り組みのきっかけは、少子高齢化の時代における子どもの健全育成と、高齢者の生きがいづくりです。

まず、子どもの健全育成については、未就学児から小学校高学年までの子どもたちが、一緒に遊べる場をつくったり、週末に地域の皆さんとスポーツをするを通じて、地域における連帯感を高めて郷土愛を広くむくことを目標としています。



▲こどもの日を前に、折り紙で兜と鯉のぼりをつくりました



▲ねえ、どう折るの？

コーディネーター 保科 正信さん

この事業を通じて、子どもたちがおとなと遊ぶことによつて、おとなの一生懸命な姿を見て、一生懸命やればいろんなことができるんだということを学ぶことができます。

また、学年を問わず年代を超えた文化的な遊びやスポーツなどを通じて、楽しみや仲間づくりができることや、みんなで集まれば、楽しいことがたくさんできるんだということを学んでくれればと思っています。そして、自分たちが生まれ育った齋川を誇りに思い、「ふるさと」を大切に思う人に育ってほしいと思います。

コーディネーター 高橋 京子さん

夏休み期間中に、プールに入れない子どもがいることを知り、公民館などで子どもたちが集まれる場所をつくるのができないだろうか、と思ったことがきっかけでした。

今、こうして多くの人たちが協力して、地域の子どもたちを健やかにたくましく育てる体制ができたことは、とてもうれしく思います。



▲楽しくみんなで粘土あそび



▲新鮮な野菜をどうぞ!!

次に高齢者の生きがいづくりですが、地域で生産される農産物を栽培する高齢者の皆さんが、農産物の直売所を開設することで生きがいを感じ、今まで以上に元気に働き続けていける環境づくりを目標としています。

これら2つの事業の実施にあたっては、市・国の補助事業に採択されています。独自の子育て支援事業は、「さい遊館」として、文部科学省の地域子ども教室推進事業に、また、農産物の直売所の開設は、馬牛沼産直センターの開設事業として、白石市きらめき推進事業に採択され、現在、それぞれの事業が展開されています。